

フィンランドにおける小学校の保健学習

小林 真衣 小浜 明

キーワード：保健学習, 小学校, フィンランド

Health Education of Primary School in Finland

Mai Kobayashi Akira Kohama

Abstract

This study aims to explore the ideal condition of Health Education in Japanese primary schools. Finland's Health Education curriculum and primary school textbooks offer positive examples of education design for Japan and other nations. Therefore, I translate and elucidate two issues. The first issue is the health education portion in the textbooks of three subjects, namely "Environment and Nature," "Biology and Geography," and "Physics and Chemistry" that were launched by Finland's state education commission as part of the "National Core Curriculum for Basic Education 2004." The second issue is the Health portion in the "Environment and Nature" and "Biology and Geography" textbooks for Years 1 to 6 of primary school.

From the result about Finland's National Core Curriculum, every health unit was categorized into three parts (Personal \Leftrightarrow Others, Object \Leftrightarrow Society, and Environment) and their relationships. Otherwise, every health education module was very scientific. The study of Finland's Health Education can help Japanese Health Education improve.

Key Words: Health Education, Primary School, Finland

目次

- I. 緒言
- II. 研究目的
- III. 方法
- IV. フィンランドの教育制度及び教育課程の基準の概要
- V. フィンランドにおける小学校の保健学習の概要
- VI. 保健学習に関わる教科書の構成とその概要
- VII. 日本の保健学習における示唆
- VIII. 今後の課題
- 引用文献及び参考文献

I. 緒言

日本の保健学習は主に米国の影響を受けている¹⁾。そのため、近年においても保健学習の検討の関心は米国に向けられており、欧州にはほとんど目が向けられていない。欧州の保健学習も多様であるが、フィンランドは大学入学資格試験においても世界で唯一保健科目を入試科目に取り入れている国である。保健科を全受験生が受験可能な入試科目として設定している国は、フィンランド以外にはない²⁾。

現在、日本の小学校の保健学習は教科「体育」の中で行われており、「G 保健領域」にその教育内容が示されている。平成 10 年の学習指導要領では、これまでの第 5・6 学年に加えて、新たに第 3・4 学年に保健学習が設けられ、平成 20 年の学習指導要領改訂でも同様の位置づけとなっている。しかし、第 1・2 学年では保健学習が行われていない。そこで、本研究においては、フィンランドの保健学習に目を向けてみたい。なお、保健学習と保健教育の関係については注) 参照のこと。

II. 研究目的

これまで、フィンランドの保健学習に関

する研究は、高橋・小浜 (2012)³⁾、小浜 (2014)⁴⁾、小林・小浜 (2015)⁵⁾が行っているのみであり、これらの研究でもフィンランドの小学校で保健学習が行われている知見は得られているが、その詳細は明らかにされていない。

本研究の目的は、日本の小学校の保健学習の在り方を探索するために、フィンランドの小学校保健科の教育課程と教科書の内容を明らかにすることにある。フィンランドの小学校での一貫した保健学習を明らかにすることは、日本の教育課程と教科書の在り方に重要な示唆を与えるものと考えられるものである。

III. 方法

本研究では、以下 2 種類の資料の翻訳及び整理を行った。

- 1) フィンランドの国家教育委員会が作成し『NATIONAL CORE CURRICULUM FOR BASIC EDUCATION 2004』⁶⁾の「環境と自然」「生物と地理」「物理と化学」における記述
- 2) Sanoma Pro 社が出版している教科書『Jäljillä』⁷⁾の「環境と自然」「生物と地理」の記述

なお、今回は「物理と化学」の教科書が入手できなかった。このため、この教科書の保健科に関する記述の翻訳は実施していない。

IV. フィンランドの教育制度及び教育課程の基準の概要

1. 基本的な教育体系

フィンランドの基本的な教育体系は、就学前教育（保育所／就学前学級）、基礎教育（義務教育第 1 学年から第 6 学年：小学校、第 7 学年から第 9 学年：中学校）、後期中等教育（高等学校／職業専門学校）、高等教育（大学／高等職業専門学校）と大まかに 4 段

階に分けられている。(図1) 授業料は公立・私立に関わらず、就学前教育段階から大学院に至るまで全て無償で行われる。1999年より基礎教育は7歳から16歳の9年間一貫の総合学校で行われている。それ以前に1年間、保育園または就学前学級(プレスクール)での就学前教育を受けることができる。

基礎学校での9年間の義務教育終了の後、多くの生徒は高等学校か職業専門学校へ進学する。その進学率は約98%(2009)である。後期中等教育学校への入学試験はなく、9年間の成績を元に希望校へ願書を出し、特に最終学年での成績によって合否が決定される。基礎学校には、進路選択に迷い納得のいく学校への進学ができなかった場合等のために任意の第10学年も用意されているが、そこへ進む生徒はごくわずかである。

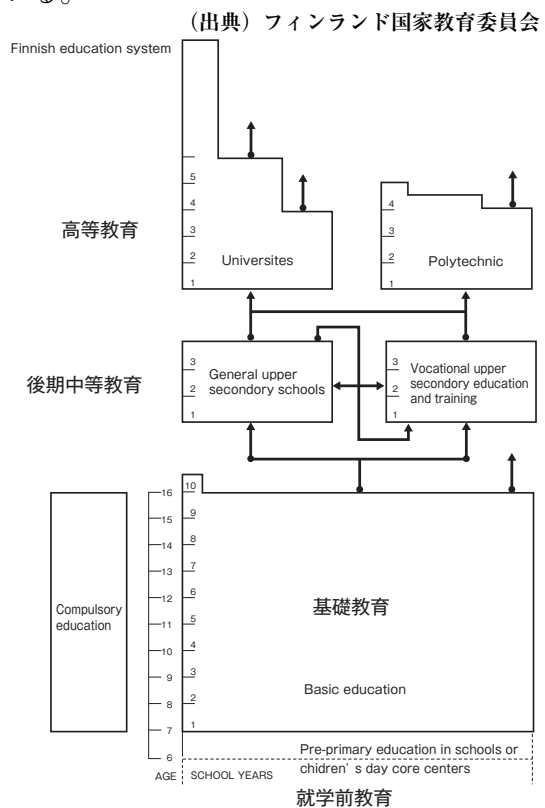
後期中等教育学校の、特に高等学校教育では無学年単位制を採用しており、日本の大学のような方式で履修科目を決め、学習する。いわゆる主要教科は必修となっており、それぞれに基礎コースが必修として設置されている。その上で各教科に細分化された上級コースが選択科目として設置されている。

高等学校へ進学した生徒の目標であり、終着地となるのは大学入学資格試験である。大学入学資格試験とは高等学校卒業認定のための試験でもあり、大学進学のための基礎資格ともなる。各大学の入学者選抜の一基準として使用される。もちろん職業専門学校へ進学した場合でも、高等教育機関へ進学の道が開かれており、OECDの調査によっても、高等教育進学率は73%(2009)である。

2. 教科書制度

フィンランドにおいては、教科書の検定制度はなく、自由発行制度の元、民間の出版

社が教科書の発行を行っている。また採用についても各学校、教師(父母の参加をも得る)による自由採択制度を採用しているため、各出版社や教科書会社は、新しい教科書が発行されると、各学校へPRに出かけることも許可されている。学習指導要領で各教科の目標や指導上の留意点が詳細に示されており、それに対応した教科書が中核教材となっている。教師がより使用しやすくなるように、常に教師の意見を取り入れて、教師用指導書や教科書の言直しがなされている。



© Finnish National Board of education

図1 フィンランドの教育制度

3. 学年配当の授業時数の規定の有無

表1は基礎教育における授業時間の分布である。保健は第1-6学年及び第7-9学年の1年間における週ごとの授業に統合されている。第1-4学年の保健は「環境と自然」、第5-6学年は「生物と地理」、「物理と化学」の教科に含まれる。

表1 基礎教育における授業時間の分布

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
母国語	14			14				14		42
外国語(A言語)					8		8		16
外国語(B言語)								6	6
算数・数学	6		12					14		32
環境と自然										
生物と地理		9			3			7		31
物理と化学					2			3		
保健										
宗教・倫理			6				5			11
歴史・社会				3			7		10
音楽			4					3		7
美術			4					4		8
工作		26				30		7		56
体育			8					10		18
家庭科								3	3
進路指導(キャリア教育)								2	2
選択科目								(13)	13
自由選択(A言語)					6			6	12

なお、フィンランドの教育制度及び教育課程の基準の概要は高橋悠(2012)⁸⁾の引用である。

V. NATIONAL CORE CURRICULUM FOR BASIC EDUCATION 2004』の内容構造

1. 配当学年

小学校第1学年から第6学年で合科的に理科に保健科の教育内容が含まれている。第1学年から第4学年は「環境と自然」の中で第5・6学年では「生物と地理」「物理と化学」に保健が含まれている。

2. 保健学習に関わる概要、目標、教育内容、到達目標

表2は『NATIONAL CORE CURRICULUM FOR BASIC EDUCATION 2004』の目次において、7.7「環境と自然」、7.8「生物と地理」、7.9「物理と化学」の各科目の概要、目標、教育内容、到達目標を翻訳しまとめたものである。

なお、ここでの目標、教育内容、到達目標の分析は保健に関する内容を抜粋したものである。

3. 保健学習に関する内容構成

『NATIONAL CORE CURRICULUM FOR BASIC EDUCATION 2004』より、フィンランドの保健科の教育内容は、「環境と自然」、「生物と地理」、「物理と化学」の教科

の中に含まれている。フィンランドの内容構成は図2のとおりである。各単元の内容が低学年より三者（個人⇔他者・対象⇔社会・環境）の相互作用関係で構成されている。一方、日本の内容構成は、図3の健康成立の3要因（主体・環境・行動）に基づく項目立てと、個人の生活空間の同心円的拡大（個人→家庭・学校→職場・社会）による配列によって構成されている⁹⁾。

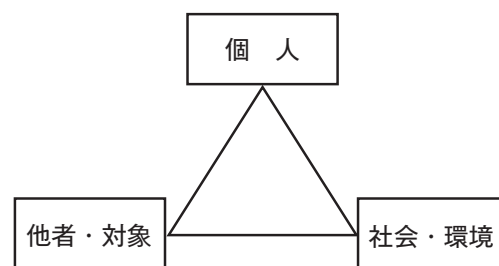


図2 フィンランドの教育内容
小林・小浜(2016)作成

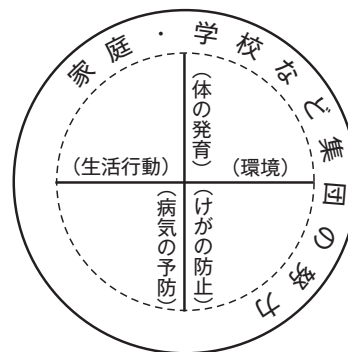


図3 小学校の内容構成
(出典) 保健の授業づくり入門p93より

VI. 保健学習の内容構成に関わる教科書の構造

フィンランドの保健学習は第1学年から科学的で専門的な内容を教える工夫がされている。また、低学年から（個人⇔他者・対象⇔社会・環境）で保健科の教育内容が構成されていることから、教科書にもこの構造が反映されている。例えば、第1学年では、交通安全で標識を覚えるうえで、環境の中でどのように体験するか、命のはじまりでは、自分の命は他者である親の体内でどのように成長するのか、また、指紋で他者と

フィンランドにおける小学校の保健学習

表2 保健の教育課程『NATIONAL CORE CURRICULUM FOR BASIC EDUCATION2004』

学年	第1学年-第4学年	第5・6学年	
科目名	環境と自然	生物と地理 物理と化学	
各科目の概要	<p>「環境と自然」は生物、地理、物理、化学と保健の統合された科目群で構成されている。</p> <p>教育の中に、持続可能な開発が含まれている。教授目標は自然を理解し、都市環境、自分と他人、人間の多様性、健康と病気について児童に知ってもらう。</p> <p>環境と自然の理論は調査に頼り、出発点は児童が持つ知識、能力、経験であり、物事、現象及びイベントは児童の環境に関連した疑問を中心とした学習法である。教授は児童の経験の助けを借り、児童と自然及び環境の良好な関係を発展させる。</p> <p>「環境と自然」の学習方法は、児童に必要な発育レベルに基づき児童が選択し、野外作業のような方法で学習することができる。環境と自然学習に関連する概念は、組織されたモジュール（教科課程の単位）によると周囲の世界、児童、社会一員としての行動を調べることにある。これらのモジュール（教科課程の単位）を学ぶことは児童が環境を保護し児童自身と環境の相互作用を理解するのに役立つ。</p>	<p>生物学は生活と生活で起きる現象を調査した。児童は同じ人間であることや生物と生物が棲む環境との相互作用を理解するようになること、また多様な生物を保護し正しく認識するよう計画された。生物の教授目標は、人間と自然の一部は同様であることを知るよう児童を導く。野外教育において自然と環境を観察し学ぶことで児童は貴重な経験を得る。生物学は探究を基にした学習でなければならない。その教育は野外と教室双方の授業で指導する。</p> <p>地理は世界と世界の多様な地域に属する調査をする。その教育は人間の活動と自然界に関連した現象や異なる地域で起きる現象の相互作用を児童は理解し立てなければならない。地理の教授目標はヨーロッパ全体やその他の世界のようにフィンランドから世界へと児童の概念を発展させる。児童は世界の自然文化及び環境の豊かさそれらに感謝することで学びの機会を得る。地理を教える時は異文化の寛容と国際主義の基礎を創造しなければならない。</p> <p>第5学年と第6学年は、生物と地理に保健科が組み込まれている。保健科の教授目標は社会過程での個人の身体・心理的な成長や人間（彼・彼女）の環境間にある相互作用を理解することである。</p> <p>生物と地理の教授は自然への責任や保護、生活環境を維持することを重要とする。児童は成長に伴い積極的に国民として持続可能なライフスタイルを支えなければならない。</p>	<p>物理と化学の出発点は、予備知識と能力、経験であり、教材や教具を用いて自然現象の観察や調査を行う。これらから、物理と化学の基本的な概念や法則は発展する。</p> <p>教授は科学を学ぶよう児童を触発し、良好かつ安全な環境の大切さを考え彼らの環境を保護し責任ある行動をとるようにならない。</p> <p>保健科は児童の体験の中で安全と健康の観点を調査することが教授に組み込まれている。</p>
保健に関する目標	<p>児童は以下のことをする</p> <ul style="list-style-type: none">・身近な環境と交通は学校で学んだことに従い、それらの環境の中で自分自身を守れるようにし、安全に行動することを学ぶ・自然を守り、天然資源を節約することを学ぶ・精神的、身体的な自己理解や他人を尊重すること、個人として他人を尊重し社会的な技能を発展させる・健康や病気、健康増進に関する言葉や方法などの概念を学び、健康を促進させるためを選択することを学ぶ	<p>児童は以下のことをする</p> <ul style="list-style-type: none">・人間の構造や生活、人類の生活環境に加え環境適応について知る・人々は狭りの自然に頼り、自然を食糧生産にしていることを理解するようになる・環境にやさしい方法で行動し、彼らの身の周りの環境と自然を守るために環境リファーマーを身につける・人体解剖学と生活機能に関する基本的なことを知る・成長と発育は各個人に個人の過程があることを尊重し、人間の性的関心を理解し、思春期の特性であることを知る・人間の多様性と社会の相互作用が成長や発育と関係する問題を表せる・自分の行動に責任を持ち、他人を思いやることを必要とする・人間の活動は地球が提供する環境に頼っていることを理解する	<p>児童は以下のことをする</p> <ul style="list-style-type: none">・作業と移動の際の安全について与えられた指示に従い自分自身とそれらの環境を保護する。・薬物乱用の危険について理解する。
保健の教育内容	<ul style="list-style-type: none">●生活と生活環境・さまざまな生活環境と環境での生物の適応・食品の出所と生産●自分の身近な環境や地域、人間の生活環境としての世界・身近な環境・地域及び州での自然条件や景観、都市環境と人間の活動●自然現象・音と光に関連する現象、聴力と視力の保護●私たちの周りの物質・物質と材料は日常生活の一部である；物質と材料のリサイクルと健全利用・空気の性質；燃焼や火災安全・特性および水の状態変化；水の利用；自然の中での水の循環●わたしと健康・人体及び人の成長段階と発育に関する一般用語・毎日の健康習慣と自分の健康を考える・人間の病気、子どもの一般的な病気；緊急時の簡単な応急処置と行動・幸福と精神的健康のために感情の認識と家族及び友情の相互作用が重要●安全・いじめと暴力の防止、身体の不可侵権を尊重し、学校での安全、交通における危険な行動と状況を回避し、自宅と余暇時間の事故を回避する・お金の使い方や他人の所有物を尊重し、約束やルールなど良いマナーで他人を配慮する	<ul style="list-style-type: none">●生物と生活環境・薬物製品に関する食品の出所と生産●解剖学、生命機能の成長と発育及び人間の健康・人体の主な構造及び主な生命機能：生殖、思春期は社会によって身体と心理に変化を伴う・自分の体を尊重し、守ること、発育及び健全な発育を促進、損なわせるような要因；性の発育には個人差がある・社会的要因に関連した人間関係や、思いやり、感情の抑制；包容力；児童の年齢に対する子どもたちの権利や責任世界の自然と人間活動の相互作用・人間によって生じる環境の変化	<ul style="list-style-type: none">●はかりと仕組み・移動の際の安全と事故予防●私たちの周りの物質・リサイクル製品の原点や利用、生活環境に属する製品や材料、製品や材料の安全な使用・貯わせる効力のある物質及びこれらの物質が与える有害な影響
到達目標	<p>第4学年までの到達目標</p> <ul style="list-style-type: none">●生物と環境児童は以下のことをする・食材はどこからきて、どこで製造されているかを知る・児童の地域及び州の自然条件と人間活動を記述する方法を知る●私たちの周りの自然現象と物質児童は以下のことをする・ランプ、フレイヤー、バッテリーを使用した簡単な電気回路接続する方法を知る・電気回路を家庭で使用していることを知る、使用する電気は危険と関連している、電気機器を安全に使用する方法を知る・視力と聴力を保護する方法を知り、火事から怪我を防止すること、火災に応じて行動する方法を知る・空気と水の性質を調査する方法を知り、水の状態変化、自然の中の水の循環を説明する方法を知る・ろうそくや木の燃焼によって別な物質へ物質転換することを理解する；引火性の高い材料について知り、携帯用消火器を使用する方法を知る・様々な物質と材料特性や利用率について知っており、医薬品や洗濯で使用するクリーニング化合物、溶剤、タバコとアルコール製品について有害な物質が家庭に存在することを知る・廃棄物を分類しポイ捨てをしない方法や、水、電気、熱を節約する方法を知る●私と健康児童は以下のことをする・成長と発育、寿命の違いや、人体の主な生体機能と最も重要な器官の名称を言える・十分な睡眠と休養、栄養、定期的な食事、毎日の運動、学校や家庭での口腔衛生、傷の手当てについて正しい心構えが毎日の実践や習慣が健康リズムを促進することを調べる・集団における礼儀的な行動について基本的なルールを知り、児童たちはさまざまな感情の名称を認識し、感情表現を抑制することができる・一般的な子どもの病気、病気の症状や治療について、児童は医薬品を使用する上で基本的な決まり、簡単な応急処置の方法を知り、助けを求めたり、どのようなものが危険を与えるのかということを知る。●安全児童は以下のことをする・いじめと暴力のさまざまな特徴を記述することを知る；児童は身体的不可侵に対する個人の権利について許容と拒絶の違いを認識し、必要に応じて児童は自身のために誰が学校や地域社会で助けてくれるかを知る。・自分の年齢に応じて許される活動と許されない活動があることを知る	<p>第6学年までの到達目標</p> <ul style="list-style-type: none">●生物と生活環境児童は以下のことをする・異なる背骨動物の集まりを識別し、最も一般的な哺乳類、鳥類、魚類の動物が環境にどのように適応するか例をええ知る・種の植物が自分自身の食糧となることを理解し知る・例を用いて、主な食物連鎖の原理を説明する方法を知る・例を挙げなぜ人間は自然に依存するのか；児童たちは基本的な食品の供給源を説明することができ、理解することができる・身近な自然環境と居住環境がどのように維持、保護されているか例を挙げることができる●解剖学、生命機能の成長と発育、人間の健康児童は以下のことをする・人間の構造と生命機能の基本的な側面について記述する方法を知る・女子と男子の思春期と性的発育の変化を個人の兆候に合わせ例を考え、自分自身の成長に関連した成長や発育の変化を調べる方法を知る・どのようにして感情表現を抑制するのか例をええ、他人の視点から物事を調べることで児童たちは人々の感情表現がどのように異なっているのか例と記述する方法を知る●世界の人間の生命の多様性と生活環境児童は以下のことをする・世界は異なる気候や植生帯を持っていることを知り、世界の気温と降水量がどのように異なるか気候条件の例を与える方法を知り、人間の活動、特に農業や住宅での生活にそれらが影響を及ぼすことや、環境の異なる人間生活を説明する方法を知る・都市の建設、産業建設、などの方法を人間の異なる領域から例を与える方法や、過放牧や薪の収集は環境に変化を引き起こしたことを知っている・自国と外国の文化の特徴を特定する方法を知る	<p>第6学年までの到達目標</p> <ul style="list-style-type: none">●科学の体験学習児童は以下のことをしようとする・与えられた指示に従い、自分自身と環境を保護しながら、安全に行動する方法を知る●エネルギーと電気児童は以下のことをしようとする・様々な天然資源から電気と熱を生成できることや、再生可能な再生不能な天然資源を分類する方法を知る●振動と建築物児童は以下のことをしようとする・交通などに科学的知識を適用し、物体の運動による力の变化を調べる方法を知る・交通やその他の日常環境において危険な状況を説明する方法を知る●私たちの周りの物質児童は以下のことをしようとする・空気の組成と大気ガスの化学記号について知り、生活を維持するために大気的重要性を理解する・児童の環境から、物質と商品の生活サイクルや物質と製品の酸性度の特性を調べる方法を知り、安全に使用する基本的な事項を知る・なぜ有害な物質（タバコや酒や麻薬）があり、危険を伴うのに使用があるのか例をええ、タバコや酔わせるもの（酒や麻薬）についてポイントを知る

表3 教科書『Jalijilla』の目次

環境と自然			生物と地理		
第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
○学校が始まる 庭園 道徳意識 安全な食を 私と他人 ○秋の森 森の中 森の木 森の果実 アリ クマ 紅葉 冬の準備 ○人間 私と友達 人生の段階 あたらしい命の始まり 体の各器官 骨格 消化 呼吸 心と五感 脳と感覚 消化器 栄養 ○冬の自然 私と自然 鳥の表 羽 野ウサギ キツネ 冬ごもりと冬眠 地球上の生命 ○学習 水 物質の状態 空気 光と熱 音声 ○私たちは海に行く カエル 海上で 鳴 海面下 ○春の植物 植物の一部分 春の花 植物の収穫 ○用語集 交通安全 すごろく・ゲーム	○さまざまな生物 生活と無生物 生物の種類 生産者と消費者 堆肥の成分を分解させる 生物が食物連鎖を形成する ○野生の絵画 庭で 庭園 食品のじゃがいも 野外からの秋物 農場 ラグランド キノコの類 ○地図と天気 異なる方向のアイテム 平面図 航空地図 コンパスと地図記号 さまざまな地図 フィンランドの地図 天気予報 気象情報とそれらの観測 ○空間と時間 宇宙は星に満ちている 太陽は星である 惑星は太陽を周回する 星は地球を周回する 季節 一ヶ月 時刻 宇宙探査 ○私たちは合理的に消費する 岩盤や土壌 木材 原料から製品まで リサイクル 商品が廃棄物を発生させる エコラベル 電気機械が動く 私たちは電気を節約する 自然の中の電気 ○夏が来る 公園と中庭 アリの巣 鳥の巣 イナゴの一種 蜘蛛 船強盗い ○音の生活 小屋 街 学校 国内 ○用語集 太陽系の惑星 庭の植物 穀物 インフルエンザ・ゲーム	○中庭ガラス・グラウンドの植物 校庭 庭心の良い中庭 庭の生息地 植物は異なる部分がある 特色は、植物の識別に役立つ 多くの植物が花を持っている 多くの植物は種から広がる おなじみの植物 分化した一部分 ○動かして実験する おなじみの自転車 小生地の交通 安全までは注意して下を 安全に自転車に乗る レーサーは仕事を楽にする バイクは曲がる 摩擦は動きに抵抗する 自転車の回転 建築耐性 ○地図を調べる マップは多くの情報を持つ 異なる環境 周辺の地図 地図・グイを使用して 地図の地形を使用する 地図上のフィンランド 世界地図 ○冬の生活 冬の日 木の休息 冬の草木植物 すべての動物は現れない 多くの動物が動く おなじみの動物 分化した一部分 ○私たちはフィンランドに住んでいる フィンランドを探る フィンランドは北部に位置する フィンランド州 ヘルシンキはフィンランドの首都である 氷河期はフィンランドの風景を変えた フィンランドの土壌と植生 フィンランドの海 フィンランドの住民 ○フィンランドの風景 分化した部分 フィンランドの景観区域 ラグランド フィンランドの危険 フィンランドの湖 ウォーターフォード州 南部の耕作地 列島・フィンランド ○水を観る 春が近づく 安全性の確保 水は重要 物質の状態 水の循環 水は異なる性質を有している ○水の岸部 ビーチで フィンランドの内陸水域 バル湖 砂浜の植物 水底下に群がる 魚の構造 魚の一生 水鳥 私たちは水域の世話をする おなじみの動物 分化した部分 鳥の巣 ○用語集 フィンランドの地図	○田舎は重要である 収穫時間 田舎 食物栽培 じゃがいも栽培 家畜 乳牛 自然で純粋な食品 おなじみの植物 分化した部分 ○動物の治療 家畜農場 家畜 ペット購入と治療 さまざまなペット 犬 動物の趣味 おなじみの動物 分化した部分 ○他人に配慮する 一休は誰に頼らうか 友人は重要 健康 ルールが助けになる 人の一生を生きた 毎日の健康管理 健康に食べよう 健康が安全より 家庭支援 過剰な危険な物質 ○北欧諸国について 北欧諸国の概観 フィンランドに属する北欧諸国 北欧の地形 気候が植物に影響を及ぼす 山から海岸までの自然 スウェーデン バルト アイスランド デンマーク おなじみの主要都市 分化した部分 現象を観る 電気の必要性 電気回路 安全な電力 磁石には引力がある 異なる色の光 光の速度と音 声の振動 冷たい、熱い、暖かい その時点談！ ○バル諸国を知る バル諸国の情報を探る 正確な地図上 バル諸国 異なる生活 エストニア共和国 ラトビア共和国 リトアニア共和国 ○火災と風 重要な空気 空気の物質 風は空気で動く 物質は燃焼に変わる 水蒸気をつくる蒸気 航空 分化した部分 ○動物王国を探索 自然に近いすべての感覚 さまざまな環境での生活 動物の種類 脊椎動物 脊椎動物を調べる 動物のライフステージ 春を道徳 おなじみの動物 分化した部分 記述することによって野生動物を保護する ○用語集 ○地図	ようこそ、生物と地理の学びへ 生物と地理 観察は科学調査の重要な一つである ○フィンランドの森林や沼地 フィンランドにはさまざまな森がある 最近森の中が暗い 乾燥した生地の森は明るい 世界には湿った森林がある 森林植物連鎖 森の動物 森に生えるキノコ 森のライフサイクル 泥炭地は湿った生息地である 泥炭地の植物や鳥 森林と沼から恩恵を受ける 自然キャンプとレクリエーション ○人間と健康 健康は変化の力と力である 人間の生命の始まり 健康は保護するためには重要である 巨大な巨大なアジア 血統は体内を循環する 酸素—二酸化炭素 体内の食べ物旅行 神経系の活動と物質 現象に必要な日 聞き取りの道の中で行われる 奇異な健康 ○ヨーロッパ—私たちの大陸 地図上のヨーロッパ ヨーロッパの異なる気候 ヨーロッパの多様な植物 民族刺繍 ヨーロッパ産業で生きる、産業とサービス 欧州連合 ヨーロッパの7つの領域 ウルトラ産業・ドイツ 島国イギリス フランス料理とワイン ブーズ型のイタリア 山岳ブルガリア 広大なロシア ○植物と植物界 植物のパーツは広い範囲にある 植物細胞で構成される 緑の植物が光合成を行う 植物は増加して広がる 種と成長を調べる 植物界はさまざまな植物を構成する 植物は数生物関係の広い範囲に住んでいる 植物種の識別 回収した種の知識を収集 春から初夏のタイプ ○用語集 ○他の欧州諸国の基礎知識 ○ヨーロッパの地図	自然科学は研究が行われている この推定の研究 ○自然から得られる食品 自然な食品 農業は食物を生産する 庭園で収穫ができる 農業から食物への食糧供給の連鎖 食品の品質が監視される ○地球の保存 地名の世界地図 世界各地 熱帯気候と植生 世界人口 地球の天然資源 持続可能なライフスタイルに向かって ○私たちは一緒に住んでいる 重要な関係 人生は感情と出会いと満ちている 子どもたちは権利と責任を持っている

のちがいを学ぶ。第2学年では、リサイクルで自分の身近なゴミから社会との関わりを学ぶ。第5学年では、目の構造を学んだうえで、視覚障害者の立場から社会について学ぶ。これらのことから、教育内容は系統的かつ科学的であり、学びが同心円の配列ではなく、三者の関係で常に構成された構造になっている。

なお、下線部が引かれているところは、保健に関連する記述である。





VII. 日本の保健学習における示唆

フィンランドの NATIONAL CORE CURRICULUM では、保健科の各単元の教育内容構成が三者（個人⇔他者・対象⇔社会・環境）の相互作用関係で構成されていた。また、教科書より、保健科の教育内容が、第1学年から系統的かつ科学的であり、学びが三者の関係で常に構成された構造となっていた。フィンランドの保健学習における教科の内容構成の構造や系統的かつ科学的な記述は、日本の保健科の教育課程の内容構成と教科書の教育内容に新たな示唆を与えるものと考ええる。

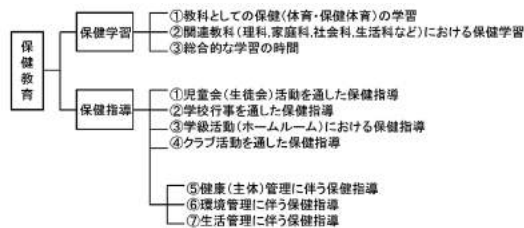
VIII. 今後の課題

本研究では、『NATIONAL CORE CURRICULUM FOR BASIC EDUCATION 2004』による各教科の保健科教育の概要、目標、教育内容、到達目標の翻訳及び分析を行ったが、昨年2015年に『NATIONAL CORE CURRICULUM』が新しく改訂された。しかし、本研究においては時間の都合上、改訂版の翻訳には至らなかった。また、「物理と化学」の教科書が入手できなかったため、保健科に関する記述部分の翻訳を実施できなかった。今後、『NATIONAL CORE CURRICULUM 2015』と「物理と化学」の教科書の両者を比較することにより、同様な点や改訂された部分を今後明らかにする必要がある。

引用文献及び参考文献

- 1) 友定保博（1997）保健的教養の形成と学校教育, 森昭三・和唐正勝編著:保健の授業づくり入門,大修館書店:p15,24
- 2) 小浜明（2014）フィンランドの大学入学資格試験における保健科の試験,体育学研究,59（2）：829 - 839
- 3) 高橋悠・小浜明（2012）フィンランドにおける保健科の教育課程一日分の学習指導要領の比較を中心として一,第59回日本学校保健学会:pp3-37
- 4) 前提2)
- 5) 小林真衣・小浜明（2015）フィンランドの小学校低学年における保健学習,日本体育学会第66回大会（2015年8月25日）
- 6) NATIONAL CORE CURRICULUM FOR BASIC EDUCATION 2004,7.7 ENVIRONMENTAL AND NATURAL STUDIES,7.8 BIOLOGY AND GEOGRAPHY,7.9 PHYSICS AND CHEMISTRY：p.170-194.
- 7) Sanoma Pro 社：Jäljillä,Kustantaja：5.painos,2013
- 8) 前提3)
- 9) 藤田和也（2001）保健的教養の形成と学校教育,前掲1)：p92-93

注）保健教育と保健学習の関係



(出典) 学校保健学 1-2. 学校保健のしくみー領域構造ーp2より

